

## 2021（令和3）年度決算について

学校法人 桃山学院  
理事長 出田 善蔵

2021（令和3）年度学校法人桃山学院の決算は、監査法人ならびに監事の監査を経たうえで、2022年5月31日（火）開催の理事会で承認されました。ここに決算概要の説明と決算諸表の公開を以下のとおり行ないます。

### 〔 決算概要 〕

#### (1) 資金収支計算書

資金収支計算書は、年度の諸活動に対応するすべての資金収入と資金支出の内容を明らかにするとともに、支払資金の顛末も明らかにする書類です。ここでは、予算額との比較で説明します。

2021年度の決算は、収入の部合計で1億7,753万円増加の210億4,941万円となりました。これは主に「補助金収入」の増加によるものです。「補助金収入」については、桃山学院大学の経常費補助金収入が8,527万円増加、桃山学院教育大学の経常費補助金収入が1,250万円増加、桃山学院高等学校の経常費等補助金収入が1,541万円増加したことが要因となります。

一方、支出の部では「教育研究経費」が2億9,694万円減少しました。これは経費削減に努めたことに加えて、「高等教育の修学支援新制度」の対象者が予測を下回ったことで奨学金支出が減少したこと、課外活動や留学支援などコロナ禍において実施できなかった業務が発生したことなどによるものです。

このように収入増、支出減の結果、翌年度繰越支払資金は7億1,689万円増加の99億4,245万円となりました。

#### (2) 活動区分資金収支計算書

活動区分資金収支計算書は資金収支計算書に記載されている資金収入および資金支出の額を3つの活動ごとに区分して記載した計算書です。

はじめに学校法人の本業にあたる教育活動による資金収支差額は、15億3,131万円となりました。

次に施設整備等活動による資金収支については、キャンパス更新工事に伴う施設関係支出1億3,066万円、情報機器などの備品や図書を購入に伴う設備関係支出1億2,071万円を計上したことにより、施設整備等活動資金収支差額は4億5,601万円の支出超過となりました。

それらの要因に財務活動や預り金の受払い等の経過的な活動を記載するその他の活動による資金収支を加算した結果、支払資金の増減額は12億5,224万円の増加となりました。

### (3) 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、年度の教育活動、教育活動以外の経常的な活動、それ以外の活動に対応する事業活動収入と事業活動支出の内容を明らかにし、事業活動収支の均衡の状態(経営状態)をあらわす書類です。計算技術的には、企業会計の損益計算書とよく似ています。ここでは、予算額との比較で説明します。

事業活動収入では、予算額に比して1億5,850万円の増加となりました。これは主に「経常費等補助金」の増加によるものです。「経常費等補助金」の増加については、桃山学院大学の経常費補助金が8,527万円増加、桃山学院教育大学の経常費補助金収入が1,250万円増加、桃山学院高等学校の経常費等補助金が1,541万円増加したことが主な要因となります。

事業活動支出では、教育研究経費および管理経費などの減少により、事業活動支出計で11億4,202万円となり、4億2,285万円減少しました。これは既述の通り、経費削減に努めたことに加えて、「高等教育の修学支援新制度」の対象者が予測を下回ったことで奨学金が減少したこと、課外活動や留学支援などコロナ禍において実施できなかった業務が発生したことなどによるものです。

このように収入増、支出減の結果、基本金組入前当年度収支差額は1億3,997万円の収入超過となり、事業活動収支差額比率は1.16%となりました。

また、基本金組入額は、1億3,905万円となり、その主な内容は図書や備品関係などの恒常的な取得資産の他にキャンパス更新工事に伴う組入があげられます。

### (4) 貸借対照表

貸借対照表は期末における学院の財政状態を示します。ここでは、前年度決算額との比較で説明します。

有形固定資産では、法人全体で2億5,137万円の設備投資を実施したものの、減価償却額がそれを上回り有形固定資産全体で12億2,238万円の減少となりました。特定資産では、減価償却引当特定資産に2億円の繰入を実施しましたが、学院全体の奨学金支出(高等教育の修学支援新制度に係る支出を除く)の資金対応として奨学資金引当特定資産を2億円取崩したことにより、前年度と同額を計上することとなりました。その他の固定資産では、長期貸付金が1,134万円減少しました。その結果、固定資産は12億3,372万円減少し、773億1,738万円となりました。

流動資産では、大規模な設備投資が無かったことなどから現金預金が増加し、11億6,485万円増加の102億700万円を計上しました。その結果、資産の部合計は、6,887万円減少し、875億2,438万円となりました。

負債の部では、固定負債における長期未払金(リース資産)が減少し、流動負債においても前受金や修学旅行費預り金の減少により、負債合計で2億884万円の減少となりました。

結果、純資産額は2020年度末に比して、1億3,997万円増加の811億2,712万円となり、純資産構成比率は92.7%となりました。

以上